

## とりくみの展開

7月に協議会運営委員、サークル・合唱団代表者で祭典準備会を発足。事務所を開設した。

一人ひとりが輝く、あったか祭典に！

05年9月18日、70人の賛同よびかけ人で、富山、石川県の代表者も含め、9団体32人の参加で、「2006年日本のうたごえ祭典 in ふくい・北陸」実行委員会結成総会を開き、正式に開催を決定した。

### 企画の基本構想

1、「うたごえは平和の力」「歌はたたかいとともに」の日本のうたごえ50数年の蓄積と地元福井の運動の達成をひきつぎ、平和・憲法・人権を守り、生きる喜びを歌い上げる企画内容とする。

2、地元福井・北陸の特長を生かして企画する。

3、北陸ではじめて開く日本のうたごえ祭典を機に、北陸でこの間培ってきた音楽的到達を一層輝かせ、新たな創造の峰をめざす。

4、各分野・全国各地からの参加を得て全国の合唱団合同演奏、職場、階層の合同演奏を企画する。

5、諸団体・音楽の専門家・各界各層の人たちの連帯協力を得て、我々福井・北陸の仲間が本祭典を主体的に取り組む中で、運動的にも、音楽的にも成長し、福井でのうたごえの新たな発展をめざす。

この企画構想を基に、11月3日～5日の3日間、6000人の大音楽会と2回のコンサート、合唱発表会も含めてのべ12500人規模の祭典とすることを決めた。

### 愉快にうたごえ新聞を増やそう

みんなで増やせば一干部も夢ではない

この会議では、うたごえ新聞拡大推進責任者の粟田栄さんから、うたごえ新聞読者を増やすことが祭典成功につながる、祭典成功の鍵は（福井の読者）一千人をやりきること、と提案があった。

### 祭典テーマソング 「あったかい歌」誕生

06年1月29日、東京、兵庫、愛知、京都、奈良から青年のうたごえ有志が来福し、福井の青年と交流を持ち、愛知の藤村記一郎さんを招いて創作合宿を開いた。この合宿で祭典テーマソング「あったかい歌」が生まれた。この合宿は、全くゼロだった福井の青年のうたごえの旅立ちとなった。

2月11日、全国祭典実行委員会では、これまで検討を重ねてきた基本方針案、企画案が提案されて大筋で承認された。

若葉芽吹く季節、いっせいに各ステージが活動開始

4月29～30日、金沢で155人が参加して西日本合唱講習会が開催された。祭典シミュレーションとして、「そして、一輪の花のほかは…」より「木の実」、女性合同、全国うたごえ合同の練習、つながりステージのダンス、青年のステージなど好評だった。北陸3県からも積極的に参加して、3県の交流も一気に進んだ。

5月に入り、障害者、つながり、青年、ぞうれっしゃ、高齢者、女性合同などの各ステージも実行委員会を結成し、参加呼びかけチラシを作って団員拡大に取り組んだ。ぞうれっしゃ、つながりステージ、「うたのわ500」、女性合同など独自にニュースを発行した。

#### うたって広げる活動

5月、6月は、県内の各集会、各地の九条の会結成総会で演奏を通し、旺盛に祭典を宣伝した。うたって広げる活動は、国民平和大行進や障害者施設でのうたう会の開催、福井センター合唱団、武生センター合唱団は、今までつながりのなかった各地の合唱団やコーラスグループに積極的に出かけて、祭典直前までうたって祭典参加を呼びかける活動を展開した。

#### 涙は出るが歩みは止めないぞ

6月 突然飛び込んできた悲しいニュース。

祭典運営委員長の西江豊成さんが、交通事故で16日未明急逝した。全国からたくさんのお悔やみと励ましのメールや手紙をいただいた。企画委員長の山崎昭彦さんは、「彼はこんなところで躊躇していることを欲していない。目的を完遂してこそ彼を弔われる。葬儀の日ですが『そんな街いいな合唱団』の練習を開きます。彼が夢として語っていたことを一步一步実現するため。それが私たちの彼に対する追悼なのです。運動を突き進む、彼はそれを望んでいます。…涙は出るが、歩みは止めないぞ。見ていてくれ、祭典の成功を。」と決意を語った。

#### 明るく、心ときめかした、うた新フォーラム

7月1日、うたごえ新聞三輪編集長を迎えて参加者100人でうたごえ新聞フォーラムを開催した。

三輪さんは講演の中で、うたごえ祭典が地元の文化を掘り起こし、うたごえを通して人と人をつないで新しい時代を切り開いていくことを実感する、顔と顔を見合わせて互いに心ときめかし、今のこの時代、命、希望が断ち切られない社会を作っていくために今こそうたごえの出番であること、そのつなぎ目にうた新がある、と話し、参加者にうた新拡大の更なる確信を与えた。

福井市内の全公民館50カ所にポスター張り出しと、チラシを置いてもらうことが出来た。

7月23日、第6回実行委員会を開き、いよいよチケット配布、チケット販売を開始した。

うたごえって？ うたごえ祭典って何？

9月のすべての土曜、日曜日と、また平日も合同練習が組まれた。女性合同の練習は、新しい仲間がどんどん増えて、練習会のつど大きな会場に変更していった。

「ぞうれっしゃ」も8月に作曲者、藤村記一郎さんを迎えての練習を成功させる中で、鯖江地域にも輪が広がり、急速にうたう仲間が広がった。

しかし、チケット普及は目標どおりにはなかなか進まなかった。

「ぞうれっしゃ」の担当者からは、「指導者や伴奏者の謝礼、会場費、楽譜代など、団員からかなりの額の団費を徴収している。その上、さらに『出演するのに自分のチケットも買うの?』という疑問が出ている。うたごえのこと、祭典のことを知ってもらう資料が欲しい」という依頼が事務局にあった。このことは他のステージからも要求が出てきた。新しい仲間たちにも確信を持ってチケット普及をしてもらうために、うたごえ祭典の歴史とうたごえ祭典はみんなで作る音楽会です。財政的にもみんなで支えあう音楽会です。という内容の「各ステージ参加のみなさまへ06うたごえ祭典大音楽会チケット普及のお願い」という文書を発行した。この文書を各ステージの練習会で読み合わせをすることにした。

#### チケット毎日集約

チケット普及を進めるために9月17日の第7回実行委員会の日から毎日集約を始めることにした。連日、結果を石川、富山にもメールとFAXで知らせた。

10月1日 祭典プレ企画として、「平和のうたごえ奉納 小浜明通寺で『ねがい』を歌おう!」と平和の歌コンサートを開いた。

#### 急速に進んだチケット普及

遅れていたチケット組織を前進させるために、まず運営委員自身が100枚、80枚と高い自主目標を持って取り組むことを確認した。

10月15日、第8回実行委員会では「あなたの一枚が祭典を成功させます。心と心をつなぎます」と、山崎企画委員長が充実した企画内容を報告し、松田毅組織委員長は、どうしても会場一杯の人を迎えたい、そのためにも今日中に1500枚の嶺を越え、その力を確信にさらに次の目標に向かってチケット普及に全力を注ぐことを熱くあつく訴えた。

#### 素晴らしいステージができそう

押し詰まった10月末の「そして、一輪の花のほかは...」の練習会でも、「ぞうれっしゃ」の練習会でも「よくここまで、という思いを強くした」(指揮者の感想)。各ステージも練習が進んで、これは素晴らしいステージが出来る、ここまで一生懸命練習してきたのだから、もっと多くの人に聞いて欲しい、見て欲しいという思いが広がった。祭典1週間前の29日、2500枚を突破し、11月4日には3000枚をやり遂げて大音楽会を迎えた。

#### 全国の参加運動

全国では、全国合唱講習会を起点に、県、ブロックでの練習がすすめられた。開催地福井・北陸の取り組みに励まされながら、北海道、九州など講習会の中でまた、地

方祭典の準備とあわせて取り組み、東京、愛知、京都、大阪などでは、府県の合同練習をくんで取り組んだ。特に、杓谷恵子さんを招き、東京、京都、大阪での女性を中心とする合同練習は、取り組みに弾みをつけた。

全国からの大音楽会への参加は3000人目標で取り組んだ。歌って参加の地方・分野の意識的な取り組みもすすめられたが、結果としては2200人で目標は達成できなかった。

のべ4800人が合唱発表会本選に参加している中で、祭典参加の活動を年間の運動に位置づけ、各都道府県に祭典プロジェクトをつくり、大音楽会の歌って参加の運動を強める必要がある。